

辺野古「自分事」と捉えて

沖縄県の玉城デニー知事は十九日の本紙インタビューで、戦後七十四年をへた今、戦争の惨害を語り継ぐ立場から「沖縄から平和を築く」と訴えた。米軍普天間飛行場(辺野古)の移設阻止に向け、県民の一人一人が「自分事」と捉え、声をあげ、手を挙げ、主権をとりもたせようと呼びかけた。

■風化の危機

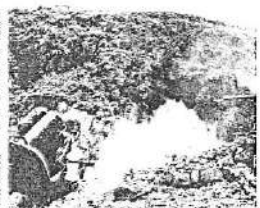
太平洋戦争末期、沖縄では大規模な地上戦が行われ、多くの犠牲者が出た。

玉城知事は、戦後七十四年になっても、戦争の記憶が風化の危機に瀕している。平和の尊厳を後世に伝える必要があり、県民一人一人が「自分事」と捉え、声をあげ、手を挙げ、主権をとりもたせようと呼びかけた。



玉城デニー知事(左)と米軍普天間飛行場の移設阻止を訴える市民ら(右)。19日、中野新聞社で。

平和も経済振興も追い求める



沖縄本島で、日本軍爆撃機が米軍基地を攻撃する様子(1945年5月)。米軍爆撃機(A-1)が、辺野古の普天間飛行場の一角に落下した。

「平和も経済振興も追い求める」。玉城知事は、辺野古の移設阻止を訴える市民らに呼びかけた。平和と経済振興を両立させることが、沖縄の未来を明るくする鍵であると訴えた。

■自立型経済

「沖縄では、経済振興」と「平和」の両方の実現が、沖縄の未来を明るくする鍵であると訴えた。

■共感全国へ

「共感全国へ」。玉城知事は、辺野古の移設阻止を訴える市民らに呼びかけた。平和と経済振興を両立させることが、沖縄の未来を明るくする鍵であると訴えた。

沖縄県玉城デニー知事は十九日の本紙インタビューで、戦後七十四年をへた今、戦争の惨害を語り継ぐ立場から「沖縄から平和を築く」と訴えた。米軍普天間飛行場(辺野古)の移設阻止に向け、県民の一人一人が「自分事」と捉え、声をあげ、手を挙げ、主権をとりもたせようと呼びかけた。

玉城知事は、戦後七十四年になっても、戦争の記憶が風化の危機に瀕している。平和の尊厳を後世に伝える必要があり、県民一人一人が「自分事」と捉え、声をあげ、手を挙げ、主権をとりもたせようと呼びかけた。

玉城知事は、戦後七十四年になっても、戦争の記憶が風化の危機に瀕している。平和の尊厳を後世に伝える必要があり、県民一人一人が「自分事」と捉え、声をあげ、手を挙げ、主権をとりもたせようと呼びかけた。



「地方自治の危機」名古屋で訴え

「地方自治の危機」。玉城知事は、辺野古の移設阻止を訴える市民らに呼びかけた。平和と経済振興を両立させることが、沖縄の未来を明るくする鍵であると訴えた。